

2023 (令和5)年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2023

言語研修について

この研修はアジア・アフリカ言語文化研究所が研究者養成事業の一つとして開催しているもので、アジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的としています。日本の専門研究者と母語話者が講師を務めます。

大学在学学生、大学卒業生または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、ご応募いただけます。

募集言語について

ハカス語、ジョージア語(グルジア語)、ベンバ語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。※コロナウィルスの感染状況、または、社会情勢の変化等により、日程・開催時間が変更となる可能性があります。

募集定員について

各言語 約10名 (当研究所で書類審査により選考します。)

募集期間について

募集期間: 2023年6月1日(木)～2023年6月22日(木)

6月15日(木)エントリー締切、22日(木)書類アップロード締切。

[主催/企画] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書または最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込みください。

※申し込みは、電子的にのみ受け付けます。

※当研究所ウェブサイト(<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2023>)のエントリーボタンより、必要事項を入力し、エントリーをしてください。自動返信メールに書類アップロード先のURLが記載されていますので、期日までに必要書類を提出してください。

※申込書に記入いただくEメールアドレス宛に選考結果通知のPDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室
研究協力課共同研究拠点係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610
Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、7月下旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付してください。

受講料等は各言語ごとに異なりますので、それぞれのページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担ください。

授業の実施方法について

十分な感染防止対策を取った上で、原則として対面で行います。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン授業に切り替える場合があります。

(判断は原則として研修の1週間前までに行いますが、急激な感染状況の変化が生じた場合はその限りではありません。)

研修中は機械換気による常時換気を行うとともに必要に応じて窓開けを行います。その他の感染防止対策については、随時講師の指示および会場校の方針に従っていただきます。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修期間中、文化講演として、担当講師以外の外部講師を招いた授業を取り入れています。文化講演は一般向けに公開することがあります。

受講までの流れについて

受講申込



P.1記載の「応募方法について」に従ってお申し込みください。

確認メール送信



書類提出後、確認メールをお送りします。

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には、受講料等の振込先および、初日の集合時間等についても、あわせてご案内いたします。

受講料振込



通知書に記載された期日までに、受講料等をお振込みください。
振込手数料は自己負担となります。

受講料振込確認メール送信



期日までにお振込が確認できない方には、事務局から確認メールをお送りします。

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し、必要に応じて、研修に関するご連絡を差し上げます。

研修開始



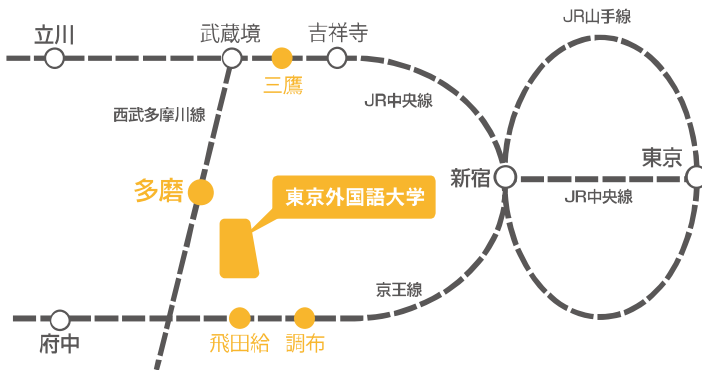
受講上の注意について

- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

東京会場 [ジョージア語・ベンバ語]
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車（所要5分）。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車（所要30分）。停留所から徒歩2分。
※小田急バス時刻表：
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統（いずれも多磨駅行き）に乗り「東京外国語大学前」で下車（所要7分）。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統（多磨駅行き）に乗り「東京外国語大学前」で下車（所要20分）。停留所から徒歩2分。
※京王バス時刻表：<http://www.bus-navi.com/>



※ アジア・アフリカ言語文化研究所は6番の建物です

大阪会場 [ハカス語]

大阪大学 箕面キャンパス (阪急バス「新船場北橋」 徒歩約5分)

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3丁目5-10

※会場となる教室は、決まり次第お知らせします。

モノレール・北大阪急行線：

千里中央駅下車 北へ徒歩 約25分

※新御堂筋沿いを北へ進んでください。(住宅街は通らないようにご注意ください。)

バス：

○阪急バス

千里中央発

⑦停留所 [81][82][83]系統、[85]系統、[22]系統

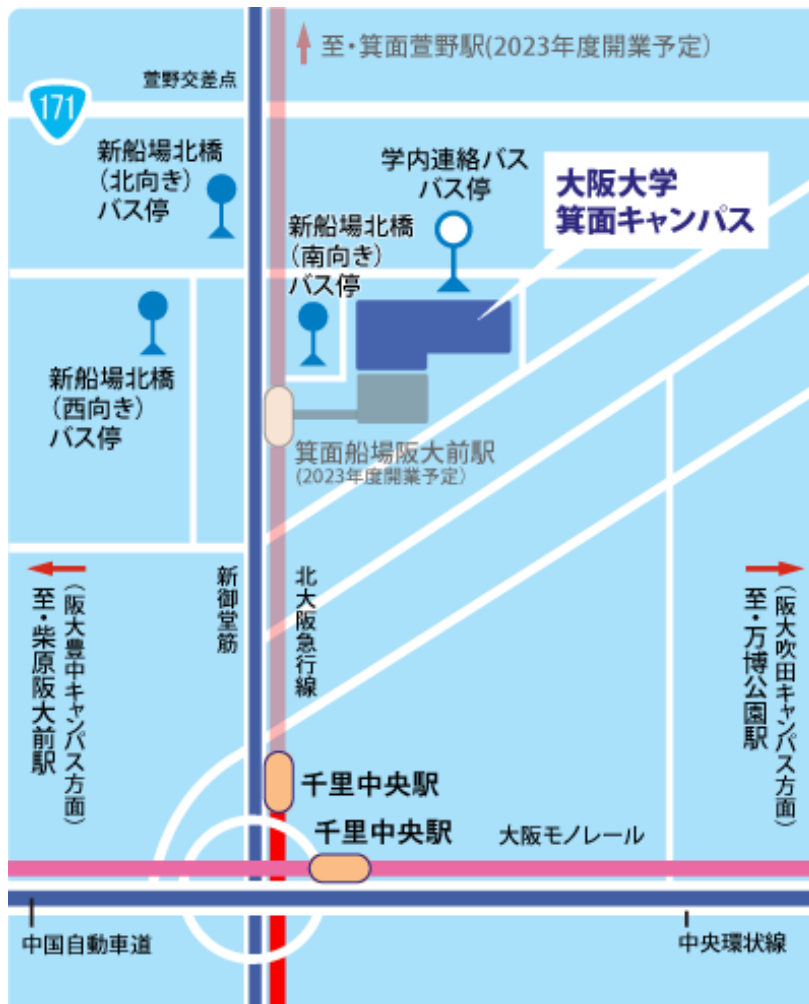
⑪停留所 [19][20]系統

新船場北橋 下車 徒歩約5分

※急行便など新船場北橋に停車しない便もありますので、ご注意ください。

※系統によって、下車するバス停の位置が異なります((北向き)もしくは(西向き))。

千里中央方面へは(南向き)のバス停をご利用ください。



ハカス語

》初學者向け

》大阪会場

》日本語での授業

ハカス語は、「シベリアのスイス」と呼ばれている、ロシア連邦ハカス共和国に住むハカス民族が話す言語で、ロシア語と並んでハカス共和国の国家語です。言語系統はチュルク語北東語群に属し、トゥバ語やアルタイ語、サハ語と同じ仲間です。ハカス民族はハカス共和国を中心に、その隣接地域(クラスノヤルスク地方やトゥバ共和国など)に住んでおり、ハカス語話者数は約4万人です。ハカス語のアルファベットはラテン文字の時期もありましたが(1929~39年)、現在は(1939年~)キリル文字を基にして作られたアルファベットを使用しています。

ハカス民族はイスラム教徒ではないので、イスラム教を信仰するトルコや中央アジアなどのチュルク諸語を話す諸民族と異なり、イスラム的な要素がほとんどないチュルク諸語の1つです。

研修の対象者について

本研修の対象者は、チュルク諸語を学んだことがある方や今後この地域の専門的研究(考古学や民族学、言語学など)を目指そうとする方だけでなく、チュルク諸語を学んだことがない初学者でも大丈夫です。文字と発音の学習から始めていきますので、ハカス語やシベリア、アジア中央部に暮らす諸民族の遊牧を中心とした歴史や文化に興味がある方ならどなたでもかまいません。

研修内容について

研修では文字と発音の学習から始めて、初級文法や表現、語彙を習得し、簡単な日常会話ができるようになり、初級から中級レベルの文章の読解が可能になることをめざします。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用します。

ハカス語文法書と教科書(読本付)、ハカス語辞典、ハカス語会話集(予定)、ハカス語分類語彙集(予定)

研修期間および研修時間について

2023年8月21日(月) ~ 2023年9月15日(金) 100時間(文化講演含む)

午前10時00分~午後4時30分(土曜日、日曜日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2023>

受講料について

60,000円(教材費込み)



講師プロフィール

高島 尚生(たかしま なおき)

1969年愛知県出身。大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士
後期課程単位取得退学。

専門は南シベリアのトゥバ民族やハカス民族の言語や文化の研究。

2008年度東京外国語大学AA研夏季言語研修(トゥヴァ語)講師

**Alevtina IDIMESHEVA(アレフチーナ イディメシェヴァ)**

ソ連クラスノヤルスク地方・ハカス自治州(現・ロシア連邦ハカス共
和国)出身。2007年より日本在住。ハカス語を母語とするハカス民
族の両親のもと、幼少期からハカス語環境下で育つ。高校時代以
降を隣接のトゥバ共和国で過ごしたこともあり、トゥバ語も理解する。

現在、ハカス語やハカス民族の歴史だけでなく、トゥバ語やキルギ
ス語などのチュルク諸語やアジア中央部や中央アジアの歴史に広く
興味を持っている。



ジョージア語(グルジア語)

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ジョージア語(グルジア語)はコーカサス地方に位置するジョージアの公用語です。トルコやアゼルバイジャン、イランなど周辺の国々でも話されており、約400万人の話者がいます。ジョージア語は民族的ジョージア人の母語であるとともに、ジョージア国内に暮らすさまざまな民族の間の共通語でもあります。ジョージア国内およびトルコで比較的少数の人々が話す幾つかの言語(スヴァン語、メグレリ語、ラズ語)とともに、カルトヴェリ(南コーカサス)語族と呼ばれる小さな語族に属します。

ジョージア語は独特のジョージア文字を用いて読み書きが行なわれ、現在まで1600年以上にわたる書きことばとしての長い歴史を持っています。

本研修で学ぶのは現代の標準的なジョージア語です。

研修の対象者について

本研修を受講するために求められる条件・知識はとくにありませんが、ジョージアおよびコーカサス地域に関連した研究を志す方を優先的に受け入れます。

研修内容について

ジョージア文字の読み書きや発音の練習から始め、基本的な文法を一通り習得することで、辞書を用いれば一般的な文章の内容を理解でき、日常的な会話をこなせるレベルを目指します。日本人講師が文法解説、ネイティブ講師が発音・会話の練習等を主として担当します。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用します。

研修期間および研修時間について

2023年8月21日(月)～2023年9月8日(金) 75時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後4時30分(土、日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2023>

受講料について

45,000円(教材費込み)



講師プロフィール

児島 康宏(こじま やすひろ)

現職：東京外国語大学非常勤講師

東京大学大学院博士課程単位取得退学(言語学)。日本学術振興会特別研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員、在ジョージア日本国大使館専門調査員等を経て、現職。著・編書「ニューエクスプレスプラス・グルジア語」(白水社)、「日本語・グルジア語辞典」(トビリシ自由大学、ゴツィリゼ児島メデアと共編)、訳書「20世紀ジョージア短篇集」(未知谷)、「祈りーヴァジャ・プシャヴェエラ作品集」(富山房インターナショナル)など。



ゴツィリゼ児島 メデア (Gotsiridze-Kojima Medea)

現職：ジョージア・ブリティッシュ大学講師

ジョージア工科大学およびトビリシ・アジア・アフリカ大学日本語科卒業。トビリシ・アジア・アフリカ大学講師、朝日カルチャーセンター講師(グルジア語)等を経て、2021年より現職。日本語を教えている。日本語教科書「みんなの日本語」(スリーイーネットワーク)のジョージア語版をトビリシ自由大学より刊行。



ベンバ語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ベンバ語はアフリカ中南部ザンビア共和国で話される言語で、公的な地位にある7つの地域言語のひとつとして都市部を含む同国の東北部で広く話されています。系統的には、ニジェール・コンゴ語族に含まれるバントウ諸語のひとつです。バントウ諸語はサハラ砂漠以南の広大な地域に分布し、また言語数としても500を数える一大言語群であることから、その系統内の構造的な多様性が研究者の関心を惹きつけてきました。ベンバ語は、例えばバントウ語としてはおそらくもっともよく知られているであろうスワヒリ語と共通する構造特徴を有しています。しかし同時にスワヒリ語的なメカニズムをあざやかに翻すような特徴も有しています。その意味では、すでに何かしらのバントウ諸語に関する知識をもっている人にとってなお興味深い言語ですが、バントウ諸語を初めて知るひとにとってはもちろんそれ以上に新鮮な発見をもたらすことでしょう。系統的な関係をさらに言えば、隣国のマラウィで話されるチェワ語(ニャンジャ語)、またジンバブエのショナ語や南アフリカのングニ系諸語など、南部バントウ諸語を学ぶうえでも有益な視点を与えてくれます。

もちろん言語学的な側面ばかりでなく、その社会的な側面においてもこの言語から、そしてこの言語が話される環境から学ぶことは多いでしょう。地域共通語としてのベンバ語を学ぶことは、それが話される地域の文化や歴史、そして人々の営みを知るうえで豊かな知見を与えてくれるはずです。そしてベンバ語もそのひとつである地域共通語が発達する前提となるアフリカ的多言語状況は、例えばヨーロッパ的な多言語状況理解を相対化するような気づきを与えてくれるかもしれません。

研修の対象者について

ベンバ語を含むバントウ諸語の研究を行うすべての学生・研究者が対象になります。また研修は現地調査における言語記述の手法(フィールド・メソッド)をとおして行われますので、研究対象言語にかかわらず言語の記述的研究を志すすべての学生がこの研修の対象に含まれます。さらにはベンバ語が話されるザンビアや中南部アフリカを対象とする人類学、歴史学、その他社会科学を含む地域研究を志す人々も対象に含まれます。

研修内容について

本研修は、ベンバ語を対象としたフィールド・メソッド・コースとして開講されます。したがって、一般的な語学研修とは異なり、言語記述や分析のための技術に関する基礎的な訓練をまず行います。具体的には、音声の聞き取りとその調音音声学的な整理、それをもとにした音韻論的な規則性を導き出すための分析です。それらをひとつおり学んだうえで具体的な調査に入っていきます。研修の一日は午前と午後の二部構成とし、午前中は語彙の調査、午後には文法調査を行います。語彙調査では、単に個々の単語の語形を聞き取るだけではなく、それらが異なる形態統語的な環境におかれたときにどのようなふるまいをするのかまで記述していきます。文法調査は、そのために準備した質問票を用いて、受講生とネイティブ講師とのインタラクションをとおしてベンバ語の形態論的また統語論的な規則性をあぶりだしていきます。二人の講師はその作業のヒントになるような技法や知識を提供します。

テキストについて

担当講師作成のテキストを使用します。

通常の言語研修と異なり、すでに答えが与えられている文法書ではなく、文法をあぶりだすための道具をテキストとします。具体的には、語彙と文法を調査するための調査票と、バントウ諸語の基本的な特徴をまとめた調査ハンドブックを用います。

研修期間および研修時間について

2023年8月21日(月)～2023年9月8日(金) 75時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後4時30分(土、日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2023>

受講料について

45,000円(教材費込み)



講師プロフィール

品川 大輔(しながわ だいすけ)

現職: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
1977年静岡県出身。名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了(博士:文学)。日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター駐在(2004-2005)、名古屋大学COE研究員(2005-2009)、香川大学経済学部講師(2009-2010)、准教授(2010-2016)を経て現職。2000年からタンザニア連合共和国のキリマンジャロ周辺でバントウ系民族語(チャガ諸語)の現地調査に従事。2014年には、言語研修「チャガ=ロンボ語」を開講。現在は東京外国語大学、明治学院大学(言語文化研究所)などでスワヒリ語の授業も担当している。



Subila Chilupula(スピラ・チルプラ)

現職: 東京外国語大学総合国際学研究科博士課程在籍
1991年ザンビア共和国コッパーベルト州出身。ザンビア大学で心理学とフランス語を学んだのち、同大大学院にて修士号(応用言語学)の学位を取得。その後、同大学で英語講師(2015-2018)。2018年に来日し、東京外国語大学大学院総合国際学研究科で修士号を取得。現在は博士後期課程に在籍し、ベンバ語の記述的研究で博士号の取得を目指している。東京外国語大学ELC(English language center)にて、英語のlanguage assistantとしても勤務している。

